

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.2(2020/09/08)

FlyingDiscTimes
presents

<参加者プロフィール>

・大谷優樹

活動地域:関東地区

所属:立教大学→サムライ→Nomadic Tribe(主将)

関わり方:プレイヤー

メン部門A代表候補

地区選抜で指導経験あり

・橋口巴璃研

活動地域:関東地区

所属:福岡教育大学→博多ハッカーズ→シータ→Nomadic Tribe

関わり方:プレイヤー

メン部門A代表候補

地区選抜で指導経験あり

<フライングディスクをこうしていきたい>

- ・地方のフライングディスク環境の向上
- ・協会・チーム・選手間のコミュニケーションの量的・質的向上

<困っていること / 課題>

1. 地方環境

→ フライングディスクに関わる人口を増やしたい

2. 協会・チーム・選手が必ずしも十分に連携できていない

<考えている解決策>

1. 地方の活性化

- 大会の開催数が関係している？
小規模の大会はあるが、全国規模は少ない？
- 楽しむ指向の大会を魅力的に感じる人もいる！
- 各地域との交流の場を作れるとコミュニティ全体の活性化につながるのでは？

2. 「選手の人」「協会の人」という枠を越える。

- それぞれの役割にグラデーションを持ち、機会によって持つ顔をかえる
- = 1人が色々な役割や顔、ラベルを持つ
- コミュニティを大きくできる可能性が十分にある

<論点の整理>

・**チームのカラーに合った取り組みを考える**

例) 関東: 競技志向の人が多い。

九州: 生涯スポーツとしての関わりが多い。

「フライングディスク競技者」としては幅広く存在する

・**協会に全てを頼るのは現実的でなく、選手がより当事者意識を持って、プレー以外にも主体的に関わっていく必要がある**

→1人のなかに複数の役割(選手/運営/指導/支援等)があることを意識し、場面に応じて役割分担する

参加者写真

担当メンバー:西中良太

